



3 ソフトウェア 編

Express5800シリーズ用に用意されているソフトウェアについて説明します。

- 添付のディスクについて(→136ページ) CPUブレードに添付のフロッピーディスクおよびCD-ROM「EXPRESSBUILDER」に収められているソフトウェアについて紹介します。
- ROM-DOSシステムディスク(→137ページ) ROM-DOSシステムディスクの使用方法について説明します。
- EXPRESSBUILDER(→140ページ) セットアップツール「EXPRESSBUILDER」について説明します。
- Express本体用バンドルソフトウェア(→142ページ) CPUブレードに接続されたハードディスクにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。
- 管理PC用バンドルソフトウェア(→148ページ) システムを監視・管理するための管理PCにインストールするバンドルソフトウェアについて説明します。
- ディスクアレイソフトウェア(→152ページ) オプションのディスクアレイコントローラを管理するためのソフトウェアについて紹介します。

添付のディスクについて

以下の添付のフロッピーディスクおよびCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、CPUブレードの管理・保守をするためのユーティリティや各種バンドルソフトウェアが収録されています。これらのソフトウェアを活用することにより、CPUブレードをより確実に運用することができます。

- ROM-DOSシステムディスク
- オフライン保守ユーティリティFD(ローカル用)
- システム診断FD(ローカル用)
- システムマネージメントFD(ローカル用)
- EXPRESSBUILDER



添付のフロッピーディスクおよびCD-ROM「EXPRESSBUILDER」は、CPUブレードの設定が完了した後も、OSの再インストールやBIOSのアップデートなどで使用される機会があります。なくさないように大切に保存しておいてください。



オプションのディスクアレイコントローラのRAIDを設定するユーティリティはボードに添付の説明書を参照してください。

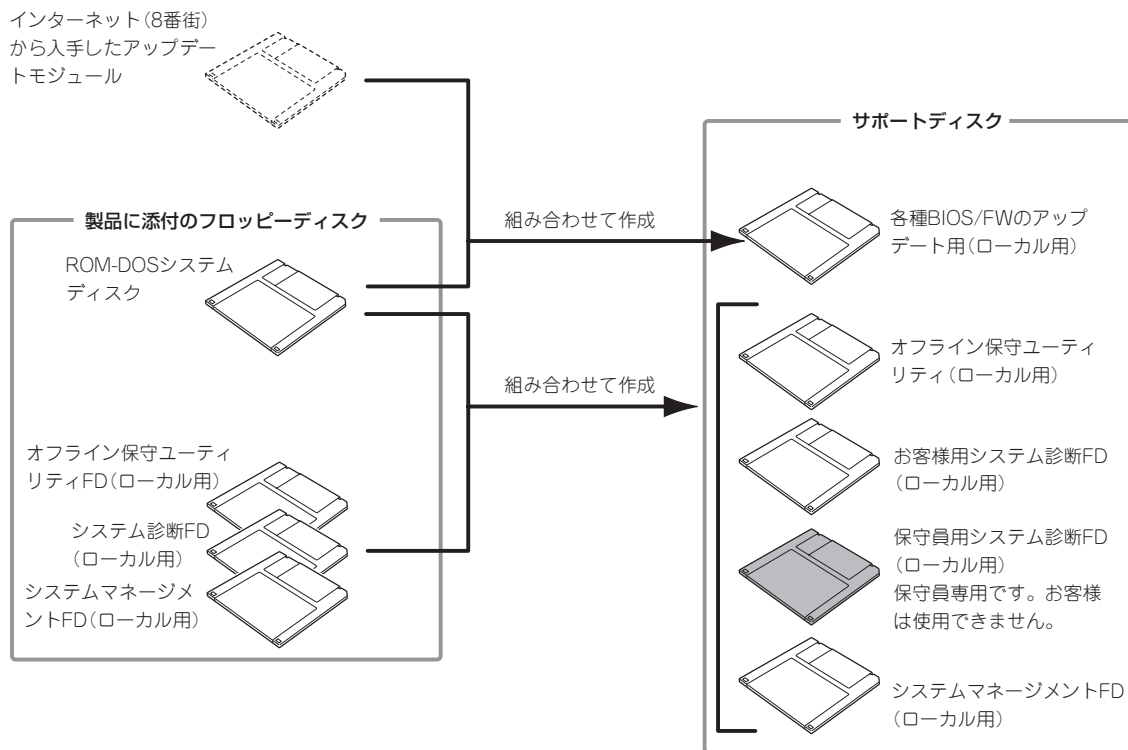
ROM-DOSシステムディスク

「ROM-DOSシステムディスク」は、CPUブレードの保守や管理をするためのユーティリティディスク(サポートディスク)の作成や、CPUブレードの各種BIOS、またはファームウェア(FW)をアップグレードするためのシステムディスクです。大切に保管してください。

概要

添付のフロッピーディスクに格納されているオフライン保守ユーティリティ、システム診断、システムマネージメントの各ユーティリティを実行するためには、ROM-DOSシステムディスクと添付の各ユーティリティのフロッピーディスクを使用して、サポートディスクを作成する必要があります。

サポートディスクを作成するためには、3.5インチ2HDの空きフロッピーディスクが必要です。必要枚数分を用意してください。



添付のフロッピーディスクは大切に保管しておいてください。

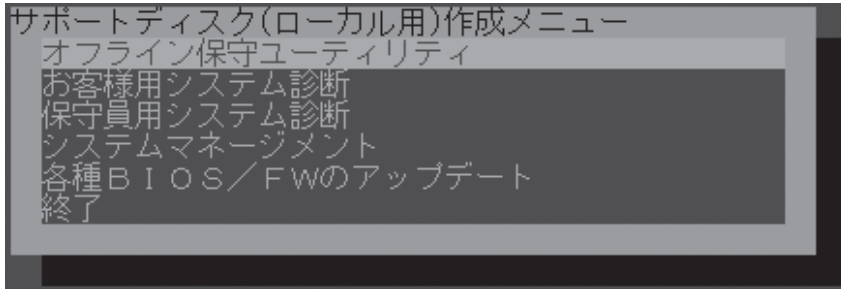
特に「ROM-DOSシステムディスク」は、添付のフロッピーディスクをそのまま使用すると破損などの可能性があるため、DOSのDISKCOPYコマンドを使用してコピーしたものをを使用することをお勧めします。



上記サポートディスクは、CPUブレードに直接コンソール(USBキーボードやUSBフロッピーディスクドライブ、ディスプレイ装置)を直接接続して操作するときに使われます。

サポートディスク(ローカル用)の作成

「ROM-DOSシステムディスク」をCPUブレードの外付けフロッピーディスクドライブ(USB接続)にセットして起動すると次に示す「サポートディスク(ローカル用)作成メニュー」が表示されます。このメニューから各種サポートディスクを作成します。



重要

- サポートディスクの作成時、フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクをすでにセット済みの場合や、セットしたディスクのライトプロテクトを解除している場合でも、下記のメッセージが表示される場合があります。その場合は、<Enter>キーを押して再度画面の指示に従って操作を行ってください。

FDがライトプロテクトされているか、
ドライブに挿入されていません。
確認後、Enterキーを押してください
確認:[Enter]

- USBキーボードとUSBフロッピーディスクドライブを使用している場合、USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

次にサポートディスク作成メニューにある項目について説明します。

● オフライン保守ユーティリティ

添付の「オフライン保守ユーティリティFD(ローカル用)」を使用してオフライン保守ユーティリティのサポートディスクを作成します。

空きフロッピーディスクを1枚用意してください。

サポートディスクを作成したら、作成したフロッピーディスクに「オフライン保守ユーティリティ(ローカル用)サポートディスク」と書いたラベルを貼り付けて大切に保管してください。

ESMPROが起動できないような障害が装置に起きた場合は、「オフライン保守ユーティリティ(ローカル用)サポートディスク」を使用して障害原因の確認ができます。

オフライン保守ユーティリティの詳細については、「運用・保守編」を参照してください。

● お客様用システム診断

添付の「システム診断FD(ローカル用)」を使用してお客様用のシステム診断プログラムのサポートディスクを作成します。

空きフロッピーディスクを1枚用意してください。

サポートディスクを作成したら、作成したフロッピーディスクに「お客様用システム診断(ローカル用)サポートディスク」と書いたラベルを貼り付けてください。

「お客様用システム診断(ローカル用)サポートディスク」を使用して、各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査することができます。システム診断の詳細については、「運用・保守編」を参照してください。

● 保守員用システム診断

添付の「システム診断FD(ローカル用)」を使用して保守員用のシステム診断プログラムのサポートディスクを作成します。

保守員用のシステム診断プログラムは保守員が使用するユーティリティです。お客様は、作成・使用は行わないでください。

● システムマネージメント

添付の「システムマネージメントFD(ローカル用)」を使用してシステムマネージメント機能のサポートディスクを作成します。

空きフロッピーディスクを1枚用意してください。

サポートディスクを作成したら、作成したフロッピーディスクに「システムマネージメント(ローカル用)サポートディスク」と書いたラベルを貼り付けてください。

「システムマネージメント(ローカル用)サポートディスク」を使用して通報機能、リモート制御機能を使用するための設定を行うことができます。システムマネージメント機能の詳細については、「運用・保守編」を参照してください。

● 各種BIOS/FWのアップデート

Express5800シリーズのホームページ「8番街」で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を使用して、本装置のBIOSやファームウェア(FW)をアップデートする「各種BIOS/FWのアップデート(ローカル用)サポートディスク」を作成します。

8番街で配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」を格納したフロッピーディスクを用意してください。用意したフロッピーディスクに「各種BIOS/FWのアップデート(ローカル用)サポートディスク」と書いたラベルを貼り付けてください。

「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」については、次のホームページに詳しい説明があります。

『8番街』：<http://nec8.com/>

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容を確認した上で、記載内容に従ってアップデートしてください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。

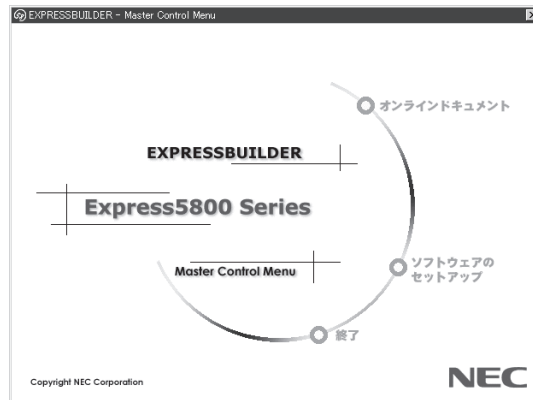
● 終了

メニューを終了し、DOSコマンドプロンプトに戻ります。

EXPRESSBUILDER

「EXPRESSBUILDER」は、ブレードサーバを保守・管理するための各種ユーティリティディスクを作成するための機能や、ブレードサーバ用の各種ソフトウェアが格納されたCD-ROMです。

Windows 95/98/Me、またはWindows 2000、Windows NT 4.0が動作しているコンピュータ上でEXPRESSBUILDERをセットするとメニューが表示されます。表示されたメニューダイアログボックスは「マスターコントロールメニュー」と呼びます。



システムの状態によっては自動的に起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROM上の次のファイルをエクスプローラ等から実行してください。

¥MC¥1ST.EXE

マスターコントロールメニューから各種ソフトウェアのインストールなどができます。

マスターコントロールメニューの操作は、ウィンドウに表示されているそれぞれの項目をクリックするか、右クリックで現れるポップアップメニューから行います。



CD-ROMをドライブから取り出す前に、マスターコントロールメニューおよびメニューから起動されたオンラインドキュメント、各種ツールは終了させておいてください。

各種ソフトウェアのセットアップ

ブレードサーバ自身にインストールする「本体用バンドルソフトウェア」とブレードサーバを管理するコンピュータ(管理PC)にインストールする「管理PC用バンドルソフトウェア」があります。

後述の説明を参照して、インストールしてください。

オンラインドキュメント

オンラインドキュメントはHTML文書で記述されています。オンラインドキュメントを参照する前に、あらかじめご使用のオペレーティングシステムへHTMLブラウザをインストールしておいてください(Windows 2000などの場合、OSをインストールすると自動的にインターネットエクスプローラがインストールされます)。また、HTML文書がブラウザに正しく関連付けられていないとファイルが開けないことがあります。そのようなときは174ページを参照して関連付けを再設定してください。



オンラインドキュメントの中には、PDF形式の文書で提供されているものもあります。このファイルを参照するには、あらかじめAdobeシステムズ社製のAcrobat Readerがインストールされている必要があります。Acrobat Reader がインストールされていないときは、はじめに[ソフトウェアのセットアップ]の[Acrobat Reader]を選択して、Acrobat Readerをインストールしておいてください。

Express本体用バンドルソフトウェア

CPUブレードにバンドルされているソフトウェアの紹介およびインストールの方法について簡単に説明します。詳細はオンラインドキュメントをご覧ください。

ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentはWindows 2000で運用しているExpress5800シリーズにインストールするサーバ監視用アプリケーションです。

EXPRESSBUILDERのシームレスセットアップで自動的にインストールすることができます。ここでは個別にインストールする場合に知っておいていただきたい注意事項とインストールの手順を説明します。



- ESMPRO/ServerAgentの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgentインストールガイド」を参照してください。
- ブレード収納ユニットのIDは0-Fと筐体IDスイッチ(ロータリースイッチ)に書かれていますが、ESMPROでの表記は1-16になります。

ESMPRO/DeploymentManagerを使ったインストール

ESMPRO/DeploymentManagerに添付のドキュメント「ESMPRO/DeploymentManager ユーザーズガイド」および「ESMPRO/ServerAgentインストールガイド」を参照してください。



ESMPRO/DeploymentManagerからESMPRO/ServerAgentをインストールする場合は、必ずSNMPサービスもインストールするようにしてください。

EXPRESSBUILDERからのインストール

添付のEXPRESSBUILDERからインストールする場合の方法について簡単に説明します。

インストール前の準備

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはWindowsのTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

● ネットワークサービスの設定

プロトコルはTCP/IPを使用してください。TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動する「ヘルプ」を参照してください。

● SNMPサービスの設定

コミュニティ名に「public」、トラップ送信先に送信先IPアドレスを使います。ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「public」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じ名前を入力します。

インストール

Express5800シリーズにインストールしたOSが起動した後、Autorunで表示されるメニューから[ソフトウェアのセットアップ]→[ESMPRO]→[ESMPRO/ServerAgent]の順にクリックしてください。以降はダイアログボックス中のメッセージに従ってインストールしてください。



- アドミニストレータの権限を持ったアカウントでシステムにログインしてください。
- Mylexディスクアレイコントローラを監視する場合は、Global Array Managerをインストールする必要があります。オプションのディスクアレイコントローラに添付の説明書を参照してインストールしてください。



ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブから起動してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。



アップデートインストールについて

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

ESMPRO/ServerAgentが既にインストールされています。

メッセージに従って処理してください。

インストール後の確認

ESMPRO/ServerAgentをインストールした後に次の手順で正しくインストールされていることを確認してください。

1. Express5800シリーズ本体を再起動する。
2. イベントログを開く。
3. イベントログにESMPRO/ServerAgentの監視サービスに関するエラーが登録されていないことを確認する。
エラーが登録されている場合は、正しくインストールされていません。もう一度はじめからインストールし直してください。

エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスに登録することにより、システムに発生する障害情報(予防保守情報含む)を電子メールで保守センターに自動通報することができます。

本サービスを使用することにより、システムの障害を事前に察知したり、障害発生時に迅速に保守を行ったりすることができます。

また、お客様のサーバ上で動作するエクスプレス通報サービスと、クライアント上で動作するシステム監視サービス(DMITOOL)を連携させることでシステムを安定に稼働させることができる、クライアント/サーバ型の保守サービス(PC通報連携機能)を提供しています。

プレインストールモデルでのセットアップ

モデルによっては購入時にエクスプレス通報サービスがあらかじめインストールされている場合もあります。インストール済みのエクスプレス通報サービスはまだ無効になっておりません。必要な契約を行い、通報開局FDを入手してから、次の操作を行うとエクスプレス通報サービスは有効になります。エクスプレス通報サービス有効後はEXPRESSBUILDER内にあるオンラインドキュメント「エクスプレス通報サービスインストールガイド」を参照して設定してください。

セットアップに必要な契約

エクスプレス通報サービスを有効にするには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでない場合、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスを有効にする操作

次の手順で購入時にインストール済みのエクスプレス通報サービスの機能を有効にします。

1. [コントロールパネル]の[ESMPRO/ServerAgent]を選択する。
2. [全般]タブの[通報の設定]をクリックする。
アラートマネージャ設定ツールが起動します。
3. [ツール]メニューの[エクスプレス通報サービス]、[サーバ]を選択する。
[エクスプレス通報サービスセットアップユーティリティ]が起動します。
4. 通報開局FDをフロッピーディスクドライブにセットし、通報開局FDを読み込む。
エクスプレス通報サービスが有効となります。

手動インストール(新規インストール)

手動でインストールする場合は、以下の説明を参考にしてインストールしてください。

エクスプレス通報サービスのセットアップ環境

エクスプレス通報サービスをセットアップするためには、以下の環境が必要です。

ハードウェア

- メモリ 18.0MB以上
- ハードディスクの空き容量 30.0MB以上
- メールサーバ
電子メール経由の通報を使用する場合、SMTPをサポートしているメールサーバが必要です。

ソフトウェア

- 添付のCD-ROM[EXPRESSBUILDER]内のESMPRO/ServerAgent
- 上記、ESMPRO/ServerAgentがサポートするOS
- マネージャ経由の通報を使用する場合は、マネージャ側に以下の環境が必要です。
ESMPRO/ServerManager* + ESMPRO/AlertManager Ver.3.4以降

* 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン以上を使用してください。

(例) 監視対象となるサーバにインストールされているESMPRO/ServerAgentのバージョン3.8の場合、バージョンが3.8以上のESMPRO/ServerManagerが必要です。

セットアップに必要な契約

セットアップを行うには、以下の契約等が必要となりますので、あらかじめ準備してください。

- **本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスの契約**

本体装置のハードウェア保守契約、またはエクスプレス通報サービスのみの契約がお済みでないと、エクスプレス通報サービスはご利用できません。契約内容の詳細については、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

- **通報開局FD**

契約後送付される通報開局FDが必要となります。まだ到着していない場合、通報開局FDが到着してから、セットアップを行ってください。

エクスプレス通報サービスのセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

PC通報連携機能

PC通報連携機能は、クライアントで発生した障害の情報を電子メールで保守センターに自動通報するサービスです。このサービスを使用することにより、クライアントの障害を事前に察知したり、障害発生時、すみやかに保守することができます。

PC通報連携機能のセットアップについては、「オンラインドキュメント」を参照してください。

また、別途PC通報連携機能での契約が必要となります。お買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

管理PC用バンドルソフトウェア

CPUブレードをネットワーク上から管理するための「管理PC」を構築するために必要なバンドルソフトウェアについて説明します。

ESMPRO/ServerManager

ESMPRO/ServerAgentがインストールされたシステムをネットワーク上の管理PCから監視・管理するには、EXPRESSBUILDERにバンドルされているESMPRO/ServerManagerをお使いください。

管理PCへのインストール方法や設定の詳細についてはオンラインドキュメントまたはESMPROのオンラインヘルプをご覧ください。



ESMPRO/ServerManagerの使用にあたっての注意事項や補足説明がオンラインドキュメントで説明されています。添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」を参照してください。

MWA - Management Workstation Application -

MWA (Management Workstation Application) は、ネットワーク上から管理PC (ESMPRO/ServerManagerが動作しているコンピュータ) を使用して、システムをリモート管理するためのアプリケーションです。Express5800シリーズの運用管理を行う管理者の負担を軽減させることができます。



MWAのセットアップと運用に関する詳細な説明については、EXPRESSBUILDER CD-ROM内の以下のパスに格納されているオンラインドキュメント「MWAファーストステップガイド」を参照してください (EXPRESSBUILDERの「マスターコントロールメニュー」からも開くことができます)。

CD-ROMドライブ: %mwa%doc%jp%mwa_fsg.pdf

機能と操作方法に関する詳細な説明については、MWAのオンラインヘルプを参照してください。

通信方法

MWAを使用する管理PCがLAN、ダイレクト (シリアルポート) のいずれかの方法でExpress5800シリーズと接続されていればMWAを使ったリモート管理ができます。



- LAN 接続はLAN1ポートのみ使用可能です。
- モデム接続は実行できません。本装置ではサポートされていません。

MWAの機能

MWAはExpress5800シリーズのシステムBIOSやベースボードマネージメントコントローラ(BMC)と接続することにより以下の機能を実現しています。

● リモートコンソール機能

Express5800シリーズのPOST実行画面およびDOSのブート中の実行画面を管理PC上のMWAのウィンドウから見るすることができます。またこの間、Express5800シリーズを管理PCのキーボードから操作できます。

● リモートドライブ機能*

管理PC上のフロッピーディスクドライブまたは、フロッピーディスクのイメージファイルからExpress5800シリーズを起動することができます。

* LAN接続時のみの機能です。

● リモート電源制御

管理PC上のMWAからリモートで、Express5800シリーズに対して以下の電源制御が行えます。

- － パワーON/OFF
- － パワーサイクル(パワーOFFの後、しばらくしてパワーON)
- － リセット
- － OSシャットダウン*

* 本コマンドをサポートしているESMPRO/ServerAgentがExpress5800シリーズ上で動作している場合のみの機能です。

● リモート情報収集

管理用PC上のMWAからリモートで以下の情報を収集することができます。

- － システムイベントログ(SEL)
- － 保守交換部品情報(FRU)
- － センサ装置情報(SDR)
- － BMC設定情報

● ESMPROとの連携*

Express5800シリーズのBMCからの装置異常などの通報を受信すると通報内容を解析して、ESMPROのアラートログへ自動的に登録します。

* LAN経由のみの機能です。

動作環境

MWAを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次のとおりです。

- **管理PC(インストールするコンピュータ)**

MWAはWindowsが動作しているコンピュータ上で動作します。詳細は「MWAファーストステップガイド」を参照してください。

- **MWAでリモート保守する装置**

Express5800シリーズに添付のユーザズガイドにMWAの記載がある装置。

対象装置には、RomPilotかBMCのいずれかが搭載されています。本装置にはBMC (IPMI Ver.1.5)が搭載されています。

MWAのインストール

MWAを使って本装置を管理するには、Express5800シリーズ本体側にMWA Agentを、管理PC側にMWA Managerをそれぞれインストールしてください。



MWA AgentはBMCをコンフィグレーションするためのツールです。Windows上からBMCをコンフィグレーションしたい場合にインストールしてください。MWA ManagerからExpress5800シリーズをリモート制御する際には、MWA Agentは必要ありません。

MWA Agentのインストール

MWA AgentはCD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使ってCPUブレードにインストールします。

1. Windows 2000を起動する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。
Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されま
す。
3. [ソフトウェアのセットアップ]—[MWA]
の順にクリックする。

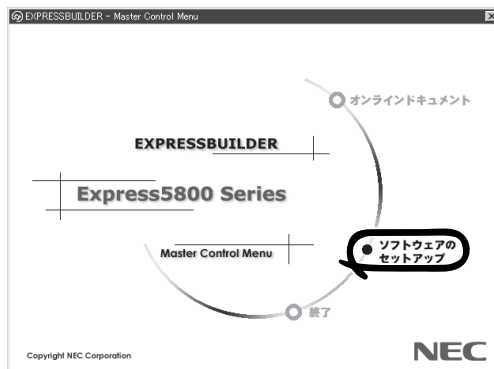


ヒント

右図の画面上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

4. [MWA Agent]をクリックする。

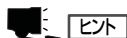
MWA Agentのインストーラが起動しま
す。インストーラの指示に従ってインス
トールしてください。



MWA Managerのインストール

MWA Managerは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って管理PCにインストールします。

1. Windowsを起動する。



MWAが動作可能なOSについて、「MWAファーストステップガイド」を確認してください。

2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

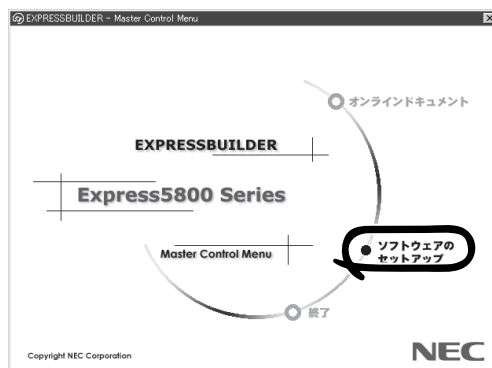
3. [ソフトウェアのセットアップ] - [MWA]の順にクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

4. [MWA Manager]をクリックする。

MWAのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。



コンフィグレーション

コンフィグレーションに必要なものは次のとおりです。

- EXPRESSBUILDER CD-ROM
- 設定情報

コンフィグレーションはMWA側とExpress5800シリーズ本体側の両方必要です。MWA側ではリモート管理するExpress5800シリーズの本体台数分の設定情報が必要です。

Express5800シリーズ装置側のコンフィグレーションには2通りの方法があります。システムマネジメントFD(ローカル用)からExpress5800シリーズを起動して実行する「システムマネジメントの設定」によるコンフィグレーションと、Express5800シリーズ本体のWindows 2000上で起動するMWA Agent によるコンフィグレーションです。

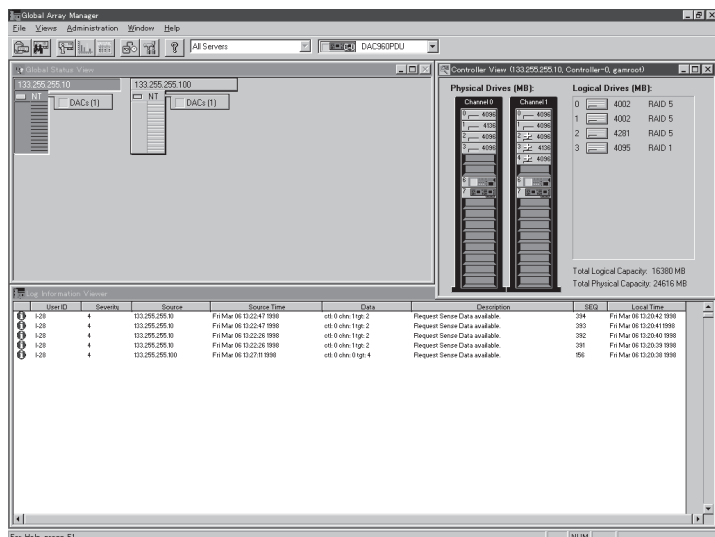
詳細な手順については「EXPRESSBUILDER」CD-ROM 内にある「MWAファーストステップガイド」またはMWAのオンラインヘルプを参照してください。

また、システムマネジメントFD(ローカル用)の詳細は「運用・保守編」の「システムマネジメント(184ページ)」を参照してください。

ディスクアレイソフトウェア

本製品はオプションでディスクアレイコントローラを接続することができます。

ディスクアレイコントローラに接続されたハードディスクの状態の監視・管理に使用するソフトウェアについて紹介します。これらのソフトウェアはディスクアレイコントローラに添付のディスクに格納されています。ディスクアレイコントローラに添付の説明書を参照して、インストールし、操作してください。



Global Array Manager Clientで確認できるアレイディスクの状態画面例

- **Global Array Manager Server**

Global Array Manager (GAM) ServerはMylexディスクアレイシステムを構築しているサーバやFibre Channelディスクアレイ (ST 12000) を接続しているサーバの監視・管理用のアプリケーションです。

- **Global Array Manager Client**

Global Array Manager (GAM) Clientは、GAM Serverと連携してMylexディスクアレイシステムを監視し、グラフィカルな画面で簡単に管理や操作をすることができます。

- **SANArray Manager Client**

SANArray Manager (SAM) Clientは、GAM Serverと連携してFibre Channelディスクアレイ (ST 12000) を監視し、グラフィカルな画面で簡単に管理や操作をすることができます。

- **自動クリーンアップツール**

自動クリーンアップツールはMylexディスクアレイの整合性をチェックし、検出した不整合を修復するアプリケーションです。

- **Array Recovery Tool**

Array Recovery Toolは、Mylexディスクアレイコントローラに接続されているハードディスクの状態を監視し、不良ハードディスク (DEAD状態) を検出すると自動的にリビルド、整合性チェックを行い、システムドライブを復旧します。